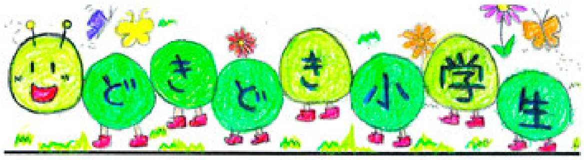
NIE特集
Newspaper In Education
毎月第2・4火曜日発行



# 向山小

学校名　仙台市立向山小学校
所在地　仙台市太白区向山３の19の１
電　話　022（223）3809
校　長　柴田　豪
児　童　338人

## 伊達家の御廟を訪ねる！

# 今なお城下を見守る

### 知り隊

## 4代以降 大年寺山に

私たちの向山小は仙台市街、太平洋を見下ろせる山の上にあります。学区の東は大年寺山へと続き、そこには伊達家の御廟（お墓）があります。年に４度、御廟の清掃が地域の方々の手で行われますが、私たちはなぜここに伊達家の御廟があるのかについては知りませんでした。そこで清掃活動に参加し、伊達家18代当主の伊達泰宗さまにお話をうかがうことにしました。

泰宗さま（中央）を囲んでお話を聞く

昨年12月５日が御廟の清掃日で、泰宗さまをはじめ、地域の方々と向山小の17人の５年生がボランティアで参加しました。とても広い御廟の敷地をみんなで協力して清掃し、何十袋分もの落ち葉を集めました。その後、茂ケ崎庵という茶室に移りました。

「ここ（大年寺山）には、４代目以降の伊達家の人々が葬られています。なぜ４代目以降なのかというと、初代の政宗公から３代目までのお墓は経ケ峯の瑞鳳殿などにあり、とても立派な御霊屋ですが、藩の財政を考えて、４代目の綱村公からはお墓の形を墓碑に変えてこの大年寺山に建てることにしました」ということです。４代目から17代目の当主さまが、今も城下を見守り眠っています。

伊達家がこの地を御廟に選んだのは、とても眺めのよい場所であったこと、綱村公がここに黄檗宗の両足山大年寺を開基し、歴代藩主の墓所と定めたこと、また、かつてここに茂ケ崎城と呼ばれた城址があり、仙台城下の南側を守るのに適した場所だったことも理由かもしれません。

これらの理由をうかがって、お墓として選ばれた大年寺山にはこんなに深い意味があったんだなあ、と考えさせられ、地域の歴史の重みを感じました。

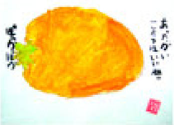
◇　◇

泰宗さまからは、『愛姫さまと政宗公が結婚していなかったり、戦で負けたりしていれば、私は生まれていなかったでしょう。いつも背中にご先祖を背負っているような気持ちです。向山小の校章（竹に雀）や校歌は、伊達家にゆかりがあります。ご先祖さまに感謝をして自分を大切にしてほしいです』と伊達家の子孫として重みのある言葉を私たちにいただきました。

美しい眺望の大年寺山をぜひ一度、訪ねてみてください。

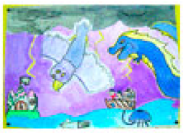
文・遠藤萌、高橋夏美、田村一樹、郡山みちる、佐藤弘武（５年）

## うきうきキャンパス



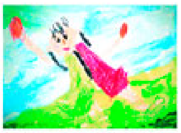
かきのみ
２年・川越瑞月

カラフル粘土
３年・木口万帆奈

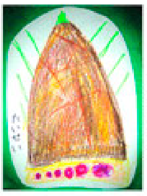


旅のとちゅうで
４年・甲田千果

縄文式土器
６年・青山仁美、小川瀬音



楽しかった運動会
６年・佐藤可奈



がっこうのたけのこ
１年・斎藤大晴

### 言い隊

## ■国産の食品を食べて■

みなさんは、販売されているお弁当のおかずがほとんど外国産ということを知っていますか。ぼくたちは総合の学習で食のことを学んでいます。毎日食べている食品のふるさとを調べると、多くの食材が輸入されていることを知りました。

輸入食材が多いことは日本の食料自給率が低いからです。食料自給率が高いフランスでは、輸入された食品は危険だと思っていて、国産の物を多く食べているそうです。ぼくたち日本人もフランスのように国産の食品を多く食べて、食料自給率をあげていければいいと思います。

みなさんも、これからの日本のためにできることを考えてほしいと思います。

（５年・三浦優輔、高野星哉）

## ■周りの迷惑考えよう■

みなさんは、公共の乗り物の中でいやな気持ちになったことはありませんか。

私たちはバスや地下鉄に乗ったとき、お化粧をしている人を見かけました。お化粧をする人は周りに迷惑をかけているとは思っていないようですが、とてもみっともないと思います。電話で話す人も見かけますが、これも迷惑だと思います。優先席近くで話している人もいて、いやな気持ちになります。困る人がいることを分かってほしいと思います。ヘッドホンで音楽を聞いている人もいますが、ヘッドホンからもれている音が迷惑です。

みなさん、乗り物の中でだけでなく公共の場ではマナーを守ってほしいと思います。

（５年・奥山美桜、佐竹文）

### 教え隊

## 三つのシンボル

## 伊達家と深いゆかり

シンボルの一つの「五本松」

向山小の三つシンボルを紹介します。一つ目は「五本松」。校庭の真ん中に立っている樹齢200年以上の５本の大きな松で、向山の森に生えていたものをそのまま残し、ずっと私たちを見守ってくれています。二つ目は「竹に雀」の校章。伊達家の家紋で、仙台市内で１校だけが受け継いでいます。三つ目は校歌。校歌には「藩祖公」（伊達政宗）という言葉が歌われ、体と心を鍛えてほしいという願いが込められています。

伊達家とゆかりの深い伝統と校風を示す三つのシンボルを大切にしていきたいです。

文・広田拓也、佐々木優雅、渡辺啓太（５年）

### 編集後記

今回の新聞作りでは、学区内にある伊達家の御廟の清掃と伊達泰宗さまへのインタビューを通して、伊達家の歴史と伝統について理解を深めることができました。御廟の清掃のボランティアに参加できたことはとてもよい体験になりました。

泰宗さまのお話は、先祖から引き継ぐ責任の重さや命の存在についても考えさせられた貴重な時間でした。

今回、NIE委員として新聞作りを体験してみて、読者に伝わるように記事をまとめることは簡単ではありませんでしたが、楽しく貴重な体験となりました。

＜編集委員＞遠藤萌、田村一樹、郡山みちる、佐藤弘武、高橋夏美、三浦優輔、高野星哉、広田拓也、佐々木優雅、渡辺啓太、奥山美桜、佐竹文（５年）
題字デザイン　菅野理子、牧那々子（５年）
＜指導教諭＞遠藤恵利子、菊池達也

次回（３月９日）は、上杉山通小（仙台市）と吉岡小（宮城県大和町）です。